

「地域産業資源活用事業計画」の第16号認定として、本県から3件の事業計画が認定となりました。

「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律（中小企業地域資源活用促進法）」の規定に基づいて、中小企業者から申請のあった「地域産業資源活用事業計画」について、経済産業省関東経済産業局では2月3日（金）に、第16号の認定を行い、本県から3件の事業計画が認定（現在認定の累計14件）となりました。

1 認定事業

地域産業資源活用事業計画

（「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律」第6条の規定による認定）

会社名	事業名	活用資源
有限会社関島水引店	伝統産業である飯田水引を活用したバッグ等の開発・製造・販売事業	飯田水引
マルオカ工業株式会社	木曽の木材・木工芸を活用した「新和風額縁」事業化プロジェクト	木曽材木工芸品
有限会社丸嘉小坂漆器店	木曽漆器400年の歴史と伝統技術を生かした、ガラスへの漆塗りによる洋風漆器の開発事業	木曽漆器

2 認定事業への支援措置

認定を受けた事業計画については、国から、補助金、設備投資減税、中小企業信用保険法の特例、政府系金融機関による融資制度や専門家によるアドバイス等の総合的な支援を受けられることとなります。

3 その他

- (1) 今回、関東経済産業局は、地域産業資源活用事業計画を16件認定しました。
- (2) 事業計画の詳細は、以下のホームページ（関東経済産業局発表資料）でご覧いただけます。

<http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/chikishigen/index.html>

3類型	鉱工業品	通巻番号	3-23-176
地域資源名	飯田水引	認定日	平成24年2月3日
地域	長野県飯田市	所管省庁	経済産業省

事業名: 伝統産業である飯田水引を活用したバッグ等の開発・製造・販売事業

会社名: 有限会社関島水引店

所在地: 長野県飯田市鼎上山2740番地

連絡先: TEL: 0265-22-6622
FAX: 0265-52-2215

事業概要(新たな活用の視点)

当地域は明治の断髪令を機に現在の水引産業が確立され、結納時の水引細工や熨斗袋等の販売・普及、組合活動等により地域伝統産業となった。近年では、結納の減少等の慣習の変化や安価な海外製品の流通等により年々出荷額が減少し、地域伝統産業として衰退の危機にある。

このような中で、地元出身のメイクアップアーティストからのニーズにより水引の美しさを活かしたバッグの製造について着手することになり、本事業により諸課題を解決をしながら水引自体の色合いや手触り感、ハンドメイド等の特長を残し、新たな商品開発(バッグ)や既存商品の性能向上による新たな販路を開拓していく。



【水引と紙バンドのコラボバッグ試作品】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

水引業界において水引バッグが商品として流通しておらず、本来の水引の良さ(美しさ、色合い、手触り感など)を活かすことで、他の紙素材のバッグ等の類似品と違いを出すことができ、本商品開発は水引の新たな市場を開拓することができる。さらにバッグ開発による課題(耐水性、耐久性など)解決により、既存水引の商品(祝儀用品や装飾品)に加え、コースター、箸置等という違う市場も開けてくる。

◆市場性

本事業がターゲットとする芸能関係者や富裕層はファッションや美について投資を惜しまず、水引商品に対しての反応が良いことから、手作業による高付加価値商品である水引バッグについても販売が可能である。

◆販路

はじめは、本事業のきっかけとなったメイクアップアーティストを通じた芸能関係者への販売を通じて販路を開拓していく。その後、展示会等へ積極的に出展し国内外の一般富裕層へ向けて販売を行う。



【水引100%バッグ試作品】

地域資源における関係事業者との連携

長野県工業技術総合センター等の協力を得て諸課題の解決を図り、開発を行う。また、本事業の実施において、水引産地としての知名度を全国に再認識させ、伝統技術の伝承、同業者の新たなチャレンジ意欲の喚起等を図り、地域の伝統産業の維持・発展に寄与できる。

3類型	鋳工業品	通巻番号	3-23-177
地域資源名	木曽材木工芸品	認定日	平成24年2月3日
地域	長野県木曽郡木祖村	所管省庁	農林水産省、経済産業省

事業名:木曽の木材・木工芸を活用した「新和風額縁」事業化プロジェクト

会社名:マルオカ工業株式会社

所在地:長野県木曽郡木祖村藪原232-7

連絡先:TEL:0264-36-2137
FAX:0264-36-2025

H P: <http://www.maruoka.co.jp/>

事業概要(新たな活用の視点)

木曽は古くから建築材の木材産地として多くの木材を産出してきた。また、現在では木曽五木としてブランド化され、広く親しまれている。しかし、近年、低価格の輸入材の台頭による国内材需要の低迷により、出荷量が減少し危機的状況である。

本事業では、木曽木材を使った木曽材木工芸品、木曽漆器等と新技術である3Dモデリングシステムを融合し、新デザイン・高品質で価格競争力のある額縁「新和風額縁」を開発する。



黒漆塗りの和風額縁

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

新商品の「和風感覚の額縁」は、木曽天然木材をベースに木曽漆等も含めた和風デザインを取り入れた「まさにワビサビのきいた本物の額縁」とし、これに当社の木工技術、開発する3Dモデリング技術を活用することで、短納期・高品質・低コストを狙う。

◆市場性

絵画用額縁は欧州などから輸入された洋風スタイルが主で、日本独自のワビ・サビの感じられる落ち着いたものがなかった。しかし、価値観の多様化やオリジナリティーの追求に伴い、これら和風感覚の額縁もが必要とされている。絵画等への愛好家の増大で確実な市場確保が狙える。

◆販路

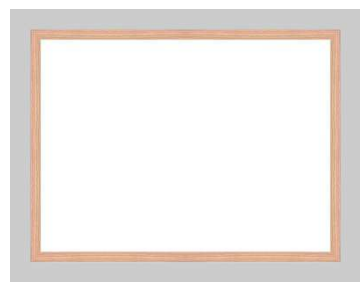
主要顧客として想定している絵画のプロ・専門家を主顧客として狙う。また、本物志向のアート・絵画に興味があるシルバー世代もターゲットとする。



沈金を施した和風額縁

地域資源における関係事業者との連携

- ・デザイン支援:木曽青峰高校インテリア科
- ・木材供給:木曽森林組合、藪原製作所
- ・技能支援:日本伝統工芸士小坂進、木曽漆器工業協同組合
- ・技術支援(3D技術):周辺地域の企業



木曽材タモを使った和風額縁

3類型	鋳工業品	通巻番号	3-23-178
地域資源名	木曾漆器	認定日	平成24年2月3日
地域	長野県塩尻市	所管省庁	経済産業省

事業名：木曾漆器400年の歴史と伝統技術を生かした、ガラスへの漆塗りによる洋風漆器の開発事業

会社名：有限会社丸嘉小坂漆器店

所在地：長野県塩尻市大字木曾平沢1817-1

連絡先：TEL：0264-34-2245
FAX：0264-34-3243

H P：http://www13.plala.or.jp/suitouyo/

事業概要(新たな活用の視点)

漆器産地は全国的に衰退傾向にあり、木曾漆器も例に漏れることなく、生産高は木曾漆器工業協同組合全体で1992年の78億円から2011年は27億円まで落ち込んでいる。

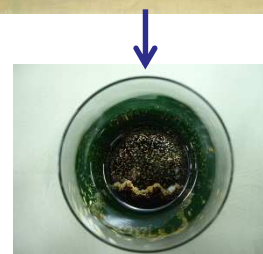
当社では平成8年長野県工業試験場(現工業技術総合センター)と共同でガラスに漆を塗る技術を開発し、漆ガラス「すいとうよ」として、おもにワイングラスなどを商品化してきた。しかし、ワイングラス中心の「すいとうよ」では用途に限りがあり市場が狭い。本事業ではテーブルウェアとしての広い範囲で市場拡大を図り、食洗機や業務用での使用に耐えられる技術を開発し、今までにないニーズに対応した新しいガラス漆器の製品化を目指す。木曾漆器の技術を生かすことで耐久性に優れたガラス漆器を生み出すことができる。



【鉢・試作品】



【グラス】



【ガラス底の加飾】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

素地をガラスにすることで、フォークやスプーンなどの使用が可能で、従来の漆器製品にはない新しい要素を生み出す。また食洗機や業務使用に対応することで、同類製品との差別化を図る。

◆市場性

素材や形状、耐久性等の新しい要素を漆器に加えることで、漆器市場だけでなく、テーブルウェア全体に市場拡大を図る。

◆販路

現在チャンネルのある各地域の有名デパートでの販売をはじめ、地元漆器問屋を通してホテル・旅館・レストラン等への販売も積極的に行っていく。

地域資源における関係事業者との連携

木曾漆器工業協同組合・木曾地域地場産業振興センターと連携して、協力工場の確保や販売店の開拓を行うことで、地元業者と密接に関わり、当地域産業の新たな起爆剤となることを目指す。また、技術開発面では長野県工業技術センター、デザイン面では地域資源製品開発支援センターの協力のもと進めていく。